

熱き思い逆る、最後のコラボ

この絶妙のコンビは、もう2度と聴けない。三石精一の指揮による東京ユニバーサル・フィルの定期演奏会が、9月の第30回で終了となる。

同楽団は、1997年に音楽監督・三石のもと、“東京で10番目のメジャー・オーケストラ”を目指して誕生。当初より一貫して正統派の名曲と正面から向き合って十分に練習を積み、思い入れのこもった演奏を目指し、質の高い演奏と、楽員の半端ではない熱意が聴衆の支持を集め、2007年には東京芸術劇場における邦人オケの最高入場者数を記録するなど、回を追うごとに飛躍的に

評価を高めてきた。

ラストの今回は、フランスの“3大名曲”で勝負。ドビュッシー「牧神」に始まり、華麗な演奏で魅せる日本屈指のピアニスト・花房晴美を迎えたラヴェルの協奏曲を経て、ベルリオーズ「幻想交響曲」の大団円に至る。指揮活動55年の三石精一と、コンビを終えるメンバー双方の思いが最大限に反映された熱演は必至。その感動の集大成を聴こう。

文：柴田克彦



三石精一

★9月23日(金・祝)・サントリーホール ●発売中

☎ ユニフィルチケットセンター 03-3632-3572 <http://www.mitsuishiseiichi-uniphil.com>